

宮城県大崎保健所栗原支所 感染症発生動向調査情報

令和5年12月7日発行

1. 発生動向

上段は発生患者数、下段は定点当たり

疾病	疫学週				判断基準(定点当たり)		
	45週	46週	47週	48週	警報レベル		注意報レベル
	11月6日～11月12日	11月13日～11月19日	11月20日～11月26日	11月27日～12月3日	開始基準値	収束基準値	基準値
インフルエンザ [#]	19 6.33	18 6.00	63 21.00	50 16.67	30	10	10
新型コロナウイルス感染症 [#]	0 —	3 1.00	1 0.33	4 1.33	-	-	-
RSウイルス感染症	1 0.50	0 —	0 —	0 —	-	-	-
咽頭結膜熱	1 0.50	1 0.50	2 1.00	2 1.00	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0 —	1 0.50	1 0.50	2 1.00	8	4	-
感染性胃腸炎	9 4.50	11 5.50	10 5.00	12 6.00	20	12	-
水痘	0 —	0 —	1 0.50	0 —	2	1	1
手足口病	0 —	0 —	0 —	0 —	5	2	-
伝染性紅斑	0 —	0 —	0 —	0 —	2	1	-
突発性発しん	0 —	0 —	0 —	0 —	-	-	-
ヘルパンギーナ	0 —	0 —	1 0.50	0 —	6	2	-
流行性耳下腺炎	0 —	0 —	0 —	0 —	6	2	3
急性出血性結膜炎	定点設定なし				1	0.1	-
流行性角結膜炎	定点設定なし				8	4	-
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	定点設定なし				-	-	-
無菌性髄膜炎	定点設定なし				-	-	-
マイコプラズマ肺炎	定点設定なし				-	-	-
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	定点設定なし				-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	定点設定なし				-	-	-
マイコプラズマ肺炎(小児科)	0 —	0 —	0 —	0 —	-	-	-
川崎病	0 —	0 —	0 —	0 —	-	-	-
不明発疹症	0 —	0 —	0 —	0 —	-	-	-

栗原支所管内定点数: #は3施設。それ以外は2施設

2. 施設対応状況 (過去2週間における支所対応状況) ◎:複数対応中、○:対応施設あり、-:対応無し

施設区分	保育所	高齢者・障害者入所施設	医療機関
対応状況	◎	-	-
備考	インフルエンザ 溶連菌		

*「1.発生動向」の解釈について

- ・上段は圏域全体で一週間に診断した患者数
- ・下段は一つの定点(医療機関)において一週間に診断した患者数
- ・下段の定点当たりの数値を表右側の判断基準と照らし合わせて評価してください。

3. 新型コロナウイルス感染症の段階適用状況

国の基準に基づき、在院者数に応じた本県の段階(0～Ⅲ)を定め、段階に応じて即応病床数を設定しています。

	段階	適用期間	県の在院者数
今週	0	12/6～12/12	59人
前週	0	11/29～12/5	61人

※県の在院者数は毎週水曜日時点

4. 栗原支所より

【全数把握疾病】

2類感染症:結核

男性 1名

※全数報告疾病 すべての医師から届け出が必要な疾病

【定点把握対象疾患】

- ・インフルエンザは前週より減少していますが、注意報レベル継続中です。
- ・感染性胃腸炎は前週より増加しています。

【集団発生情報】

保育施設においてA群溶血性レンサ球菌咽頭炎(溶連菌)の集団発生がありました。手洗い、手指消毒、換気、環境消毒等の感染対策を徹底しましょう。

【感染症コラム～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～】

- ・A群溶血性レンサ球菌によって引き起こされる細菌性急性咽頭炎(溶連菌)で、冬季および春から初夏にかけてと2つの時期に流行がみられます。
- ・どの年齢でも発症しますが、学童期の小児に最も多くみられます。
- ・突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。また、口蓋の小点状出血あるいは莓舌がみられることがあります。
- ・主な感染経路は飛沫・接触感染です。接触の機会が増加するときに起こりやすく、家庭、学校などの集団での感染も多くなっています。
- ・予防としては、患者との濃厚接触をさけることが最も重要です。うがい、手洗いなどの一般的な予防に努めましょう。

大崎保健所 栗原支所 疾病対策班

☎0228-22-2117 ☎0228-22-7595

HP:<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khhwfz/ktindex.html>